





## (5) 第2回宮古島市観光推進協議会資料

資料1

### 前回までのおさらい

令和7年2月

宮古島市観光推進協議会 事務局

## 第1回宮古島市観光推進協議会



協議事項
・第2次観光振興基本計画の進捗について ・牧山公園の活用について ・受入環境の検討について

↓

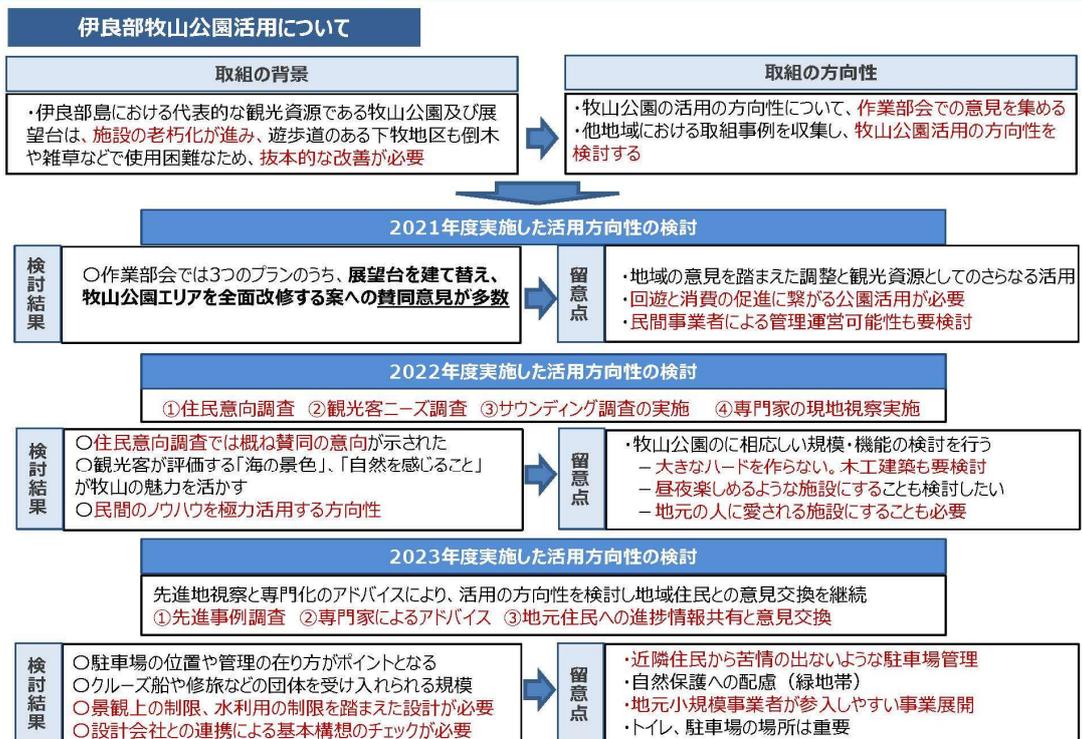
第2次観光振興基本計画の進捗について
1. 令和5年度（2023年度）実績 2. 令和5年度（2023年度）総括 3. 各施策の課題・対策の抽出について

牧山公園の活用について
1. 昨年度の経過と、今年度の実施事項 2. 伊良部牧山公園活用基本構想 構成案 3. 牧山展望台改装のイメージ 4. 伊良部牧山公園活用基本構想 策定スケジュール

受入環境の検討について
1. 受入キャパシティのモニタリング 2. 観光アンケートの通年化 3. 大学との連携による観光人材誘致支援

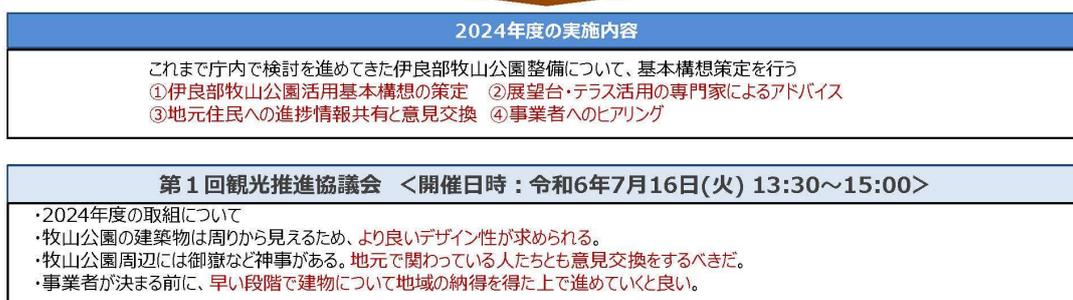
2

## 前回までのおさらい



3

## 前回までのおさらい



4

## 牧山公園活用検討作業部会

2025年2月

宮古島市観光推進協議会 事務局

©2025 JTB Tourism Research &amp; Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

### 作業部会での主な意見

株式会社 JTB総合研究所

#### 第1回牧山公園活用検討作業部会 <開催日時：令和6年8月29日(木)13:30～15:00>

##### ①自然の活用について

- ・サンパの保護も含めて、ゾーニングをしっかりとつ、緑地帯をしっかりと維持してほしい。
- ・子どもたちが伊良部の生き物を学ぶ場があれば良い。

##### ②地元への還元について

- ・地元の特産物や農産物を紹介できる物産展や、工芸品を紹介してはどうか。
- ・地域の特産物を使い企業が関係し、地元にも収益の一部が還元されるような、例えば清掃等の取組があっても良い。

##### ③牧山独自の魅力発揮について

- ・来間の展望台のように、内地から来る人に必ず紹介する場所になってほしい。
- ・他の観光施設とは違う特長のある施設にしていきたい。

#### 第2回牧山公園活用検討作業部会 <開催日時：令和6年10月15日(火) 13:30～15:00>

##### ①牧山公園周辺の環境活用について

- ・海の駅との回遊性確保については非常に良いと考える。
- ・牧山の良さを生かしていただきたい。森も見られるようなものができれば良い。防空壕を活用しても良い。

##### ②コンセプト及び関連施設について

- ・基本構想は伊良部島の文化、歴史、自然環境を十分に生かしたコンセプトにしていきたい。
- ・敷地範囲に限られるが、店も2～3店舗あれば良い。様々なものが楽しめ、伊良部の歴史が学べると良い。
- ・インフラ整備について主要部分を占める水に対する費用も加味した整備をお願いしたい。

##### ③地元雇用と市民への還元について

- ・カフェのは地元の食材を使い、地元の人を雇用していただきたい。
- ・牧山公園の場合も海中公園同様市民価格を考えるべきだ。

©2025 JTB Tourism Research &amp; Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

2

第3回牧山公園活用検討作業部会 <開催日時：令和7年2月17日(月) 9:00~10:30>

①生態系への配慮について

- ・自然との共生を図るべき。冬でも虫を見ることができる自然豊かな場所である。
- ・木を伐採するなどせずに、生態系に配慮してほしい。
- ・道路が狭いからといって木を切らないようにしてほしい。

②周辺への配慮について

- ・御嶽や井戸など、触れてはならない場所があるので、気を付けてもらいたい。
- ・展望台の直下が崖なので、安全確保のため、少し内側に建設する必要がある。

③魅力を高めるための環境整備について

- ・八重山諸島まで見えるのであれば、望遠鏡を設置するのも良い。
- ・トイレが一番の問題である。改修が必要。

---

---

# 伊良部牧山公園活用基本構想

## (案)

---

---

令和 7 年 3 月  
宮古島市

## 目次

第1章 本構想の目的と概要 .....	2
(1) 整備方針 .....	2
(2) 導入機能と施設 .....	3
第2章 宮古島の観光における牧山公園の現状 .....	4
(1) 宮古島市および伊良部島の現状 .....	4
(2) 伊良部牧山公園・牧山展望台の現状 .....	4
(3) 道路・水道・電気等の整備状況 .....	6
(4) 観光客の来訪動向やニーズ .....	7
第3章 法的条件等の把握及び課題 .....	9
(1) 既存の計画との整合 .....	9
(2) 自然環境の保全 .....	11
(3) 景観への配慮 .....	11
第4章 地域のニーズ .....	12
(1) 地域に求められる機能 .....	12
(2) 先進地事例 .....	13
第5章 牧山公園の将来像と整備方針 .....	14
(1) コンセプト .....	14
(2) 整備イメージ .....	15
(3) 配置する機能について .....	17
第6章 整備工程 .....	24
(1) 今後のスケジュール .....	24
(2) 整備費用 .....	25
(3) 運営手法 .....	26

## 第1章 本構想の目的と概要

この構想では、伊良部牧山公園の再整備を通して、伊良部島・宮古島市を代表する観光スポットとしての活用をはかるとともに、自然環境・景観の保全にも務め、地域の観光や産業の振興、豊かな環境づくり、観光客の満足度や利便性の向上を目指すものです。

構想策定にあたって、宮古島市及び観光推進協議会において、調査・検討を行った結果をふまえ、現状や各種方針に即した整備・活用の方向性を提示します。

### (1) 整備方針

#### コンセプト：伊良部ブルーに浮かぶ牧山展望テラス

景観の活用	伊良部ブルーの美しい海や島を一望できる景色を最大限に楽しめる施設とします。
自然環境との調和	県立自然公園内であることや、伊良部島で最も高く目立つ施設であることをふまえ、生態系や景観など、自然環境との調和をはかります。
地元への貢献	地域住民の憩い・自然とのふれあい・学びの場を目指すとともに、整備・運営に地元事業者が参画することなどによって、地域の経済・社会に貢献します。

牧山は伊良部島で最も高く、宮古島市を構成する4つの島と、晴れた日には多良間島まで見渡すことができます。一帯はサシバの飛来地で、サシバは地域の文化に深く根付いています。牧山は森林と崖によって貴重な生態系が育まれているだけでなく、地域住民の憩いの場にもなっています。美しい自然や景観によって、地域住民・観光客双方にとって伊良部島のシンボルになっています。

牧山からも眺められる美しい海は宮古島市の大きな魅力で、マリナクティビティや自然の景色を眺めることを目的に、多くの観光客が伊良部島を訪れています。観光客に対しては、伊良部島の美しい自然環境をより良い形で楽しんでもらうことが、自然環境に対する理解を深め、環境保全に向けた行動につながると考えられます。また、市場の成熟によって本物の体験を求める旅行者が増えている中で、地域のコミュニティに根差したサービスや地域産品を提供することが求められており、地域の社会・経済に対する影響も高くなります。こうした持続可能な地域への貢献は、これからの伊良部島のシンボルとしてふさわしい役割といえます。

美しい伊良部ブルーの海と、サシバが飛来する豊かな環境が将来にわたって守られるよう、島の自然環境に配慮しながら整備を進め、島の自然について体験しながら学べる機能を配置します。地域の方からも観光客からも愛される場所を目指します。

## (2) 導入機能と施設

本構想において整備を予定している施設は次の通りです。

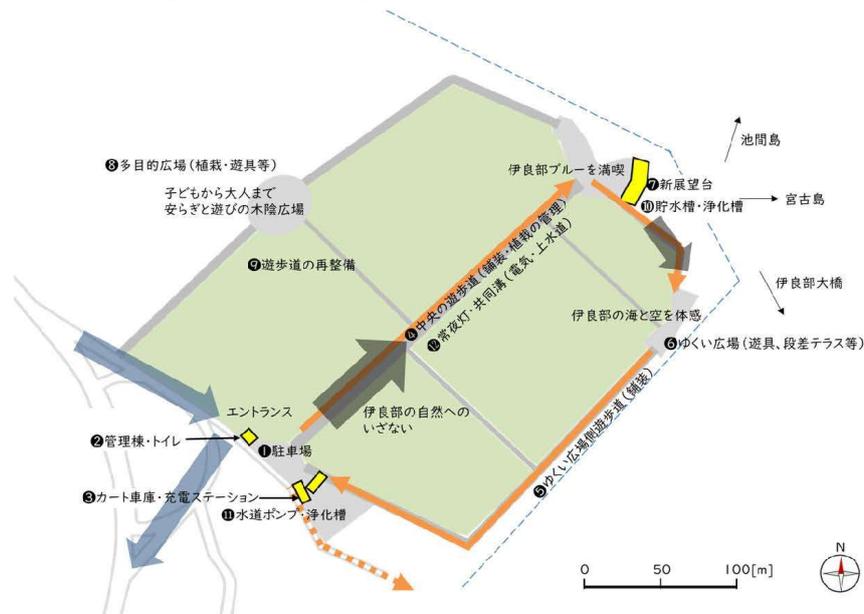


図 1 牧山公園整備の方向性

ゾーン	内容	区分
エントランス	① 駐車場	改修(拡張)
	② 管理棟・トイレ	改修
	③ カート車庫・充電ステーション	新設
自然へのいざない	④ 中央の遊歩道	改修
	⑤ ゆくい広場側遊歩道	改修
ゆくい広場	⑥ ゆくい広場	改修
展望テラス	⑦ 展望テラス(※既存のトイレ機能を組み込み)	建て替え
多目的広場	⑧ 多目的広場	改修
	⑨ 多目的広場側遊歩道	改修
施設基盤機能	⑩ 貯水槽・浄化槽	新設
	⑪ 水道ポンプ・浄化槽	新設
	⑫ 常夜灯・共同溝	新設

図 2 整備する施設の一覧

## 第2章 宮古島の観光における牧山公園の現状

本章では、宮古島市および伊良部島の観光拠点となっている牧山公園の更なる活用に向けて、宮古島市・伊良部島の現状や、観光客の動向、および公園の現状の整備状況などを整理します。

### (1) 宮古島市および伊良部島の現状

宮古島市への入域観光客数はコロナ禍を除いて増加傾向にあり、2023年度は年間100万人近くが訪れました。沖縄県が実施している調査によると、宮古圏域を訪れた方の7～8割が伊良部島・下地島を訪れており、伊良部島の入込客数は年間60～70万人にのぼるとみられます。

観光収入も増加傾向が続いており、2023年度は886億円となりました。滞在日数の増加や、単価の高い宿泊施設・体験プログラム等の発展に伴い、コロナ禍の落ち込みは人数と比べて小さく、順調に成長を続けています。



図3 宮古島市に関する主な観光データ<sup>1</sup>

### (2) 伊良部牧山公園・牧山展望台の現状

伊良部牧山公園は、伊良部島で最も高い場所にあり、伊良部大橋の見える牧山展望台は市民や観光客が多く訪れる地域のシンボルとなっています。一帯は沖縄県立伊良部自然公園の第三種特殊地域に指定されており、「展望園地と島全体が一望できる景観上重要な地域<sup>2</sup>」と位置付けられています。

<sup>1</sup> 宮古島市観光統計・沖縄県「観光統計実態調査報告書」

<sup>2</sup> 沖縄県環境保健部自然保護課「伊良部県立公園公園計画書」(1995年)



図 4 伊良部牧山公園

牧山展望台は「優れた観光地の有効利用を図り、観光産業の振興と市民の保健、休養及び教化に資することを目的<sup>3</sup>」に整備され、当地に飛来するサシバが羽を広げた形の建物が特徴となっています。しかし、昭和 57(1982)年度に建てられた建物は老朽化が進んでおり、台風等によるモルタルの落下などが懸念されています。台風等の影響によって広場へ至る遊歩道や、広場の遊具等も整備が不十分になっており、市民の憩いの場としての機能を再強化する必要があります。

また、多くの観光客が訪れ、伊良部島を代表する観光スポットになっているにも関わらず、地域の自然環境等を紹介し、学びを提供する機能が十分ではないほか、消費できる施設がないことにより、地域産品を提供する機会を損失していると考えられます。

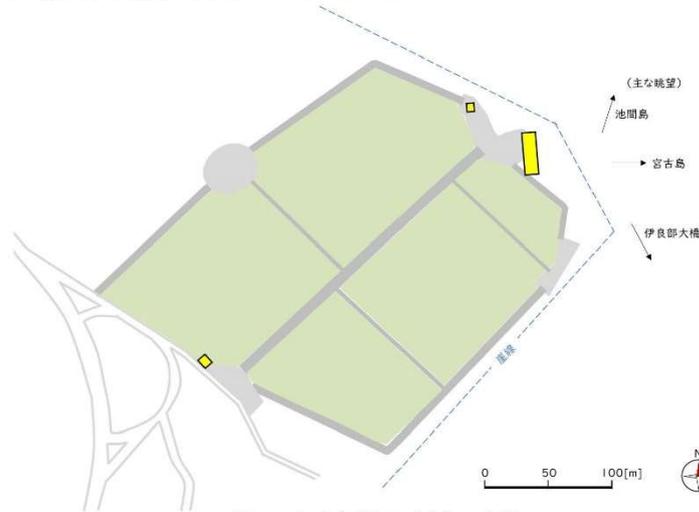


図 5 伊良部牧山公園の地図

3 「平成 28 年度 宮古島市公共施設等総合管理計画」

施設に関する課題は、以下の通りです。

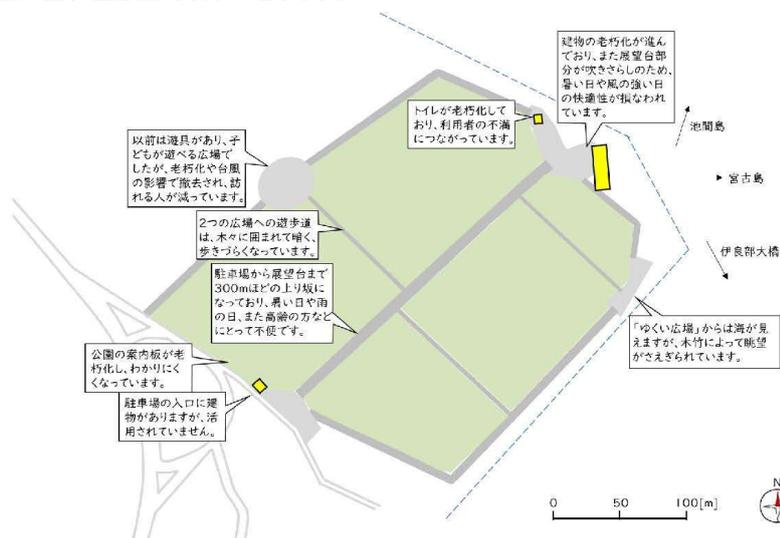


図 6 伊良部牧山公園の現状・課題

### (3) 道路・水道・電気等の整備状況

#### ① 道路・駐車場の整備状況

牧山公園は市道から約 100m 進んだところに駐車場があり、牧山展望台は駐車場から約 300m の歩道で結ばれています。

現在の駐車場は普通車約 15 台・大型バス約 3 台分が確保されていますが、今後來訪者が増えれば、路上駐車などが生じてしまうことが懸念されています。また、駐車場から展望台までは距離があり、雨天時や暑い日の移動や、高齢者や障がいのある方の移動が難しいことも課題です。

#### ② 水道の敷設状況

市道の地下に送水管があり、現展望台の横のトイレまで上水道が敷設されています。下水の処理については、浄化槽を設置して対応しています。

今後來訪者数やトイレの利用人数が増加したり、飲食等の水を利用する機能を導入したりすることで、上下水の利用量が増えるため、水道管の再整備と浄化槽の設置が必要になります。

### ③ 電気の整備状況

牧山展望台には電気が通っておらず、公園に送電線は引かれていません。展望台の機能強化や、早朝・夜間でも安心して利用できる環境づくりのためには、電気を利用することが欠かせません。

## (4) 観光客の来訪動向やニーズ

2023年に実施した調査では、宮古島市を訪れた観光客の約30%が牧山展望台を訪れており、宮古島市への入域観光客数を踏まえると、年間約25万人が訪れていると考えられます。



図 7 宮古島市内の来訪場所(2023 空港調査)

牧山公園を訪れた方にアンケートを行ったところ、牧山公園の魅力として「海の景色がきれい」をほとんどの方が選んだように、景色の美しさに対する満足度が高い一方で、不満な点として「展望台がきれいでない」「飲食施設がない」「トイレが汚れている」といった回答が目立ちました。旅行系のクチコミサイトでも、景色のきれいさを評価する声が多い一方で、施設の老朽化について言及するものも散見されます。

なお、同調査によると牧山公園の平均滞在時間は「15分未満」が25.8%、「15～30分未満」が63.2%と短くなっており、滞在時間を伸ばすことで消費につなげることが期待されます。

伊良部島全体においても滞在時間が短いことが課題となっており、「美しい景色を眺める」だけでは機能性が求められます。

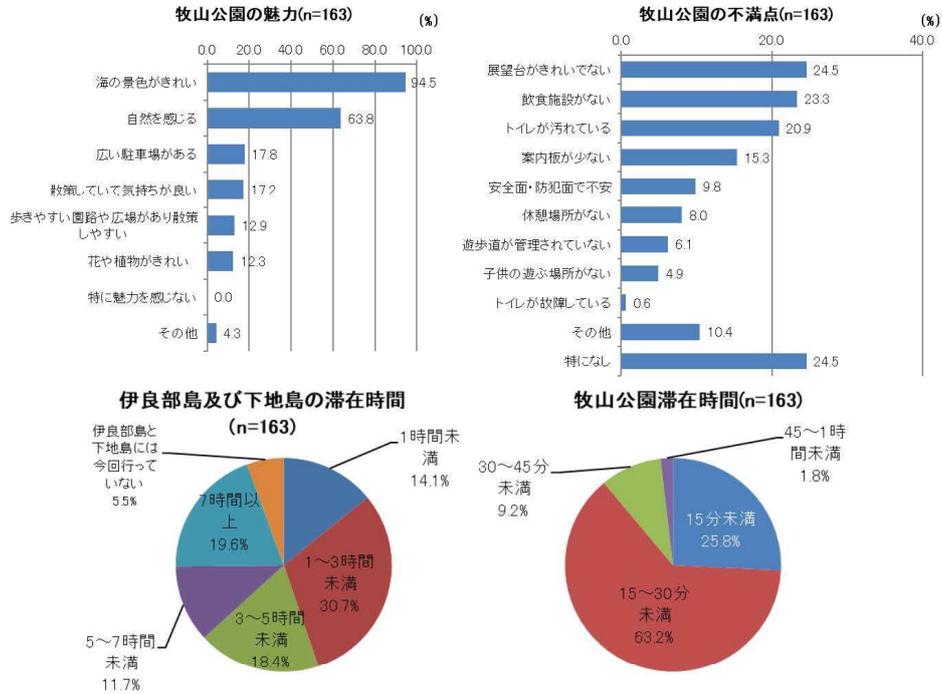


図 8 牧山公園来訪者アンケート(2022年実施)

また、2022年に併せて行った来訪者インタビュー調査では、旅行中に偶然見つけて立ち寄る方が多く、来訪前に知っていた方が少ないことから、情報発信が不足していると言えます。整備に際して、トイレの整備のニーズが大きく、景観やごみ問題などに配慮した整備が求められています。

### 第3章 法的条件等の把握及び課題

本章では、伊良部牧山公園を取り巻く各種法令・ガイドラインや、宮古島市及び伊良部島における自然環境の保全や地域づくり等の方向性を確認し、牧山公園が目指すべき方向性や遵守すべき事項を確認します。

#### (1) 既存の計画との整合

##### ① 第2次宮古島市観光振興基本計画

2019年度に策定された同計画では、観光振興の全体像として、「持続可能な観光振興」と「満足度の向上」による「市民と観光客の満足度の最大化」を掲げています。

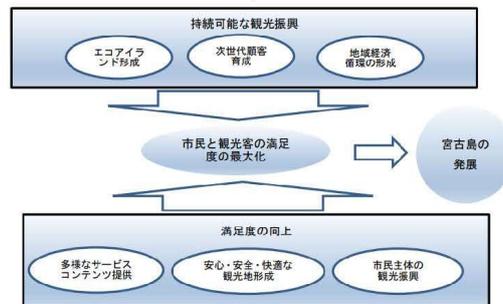


図9 第2次宮古島市観光振興基本計画における観光振興の全体像

##### ② 宮古島市都市計画マスタープラン<sup>4</sup>

2023年度に改訂された同計画では、共生・定住・交流・発展の4つの視点をふまえ、都市構造の軸・ゾーンを設定しています。伊良部牧山公園は「自然環境保全ゾーン」に位置付けられ「貴重な自然的資源の保全を図る」とされています。伊良部地域の自然環境保全ゾーンの方角性として、以下の2点が挙げられています。

- (1) 周囲の環境・景観と調和したリゾート空間づくり(環境・景観と調和・配慮した開発など)
- (2) 自然資源・観光施設の維持・向上(牧山展望台及びその周辺地域の維持管理強化など)

伊良部地域の地域別構想では、将来像を「自然と共生する安心安全の地域づくり」として、地域づくりの目標を以下の3点掲げています。

<sup>4</sup> 宮古島市都市計画マスタープラン(2021年4月改訂)

(1) 安全で安心して暮らし続けられる集落環境づくり

(2) 海と空を活かした賑わいある交流空間づくり

(3) 島の暮らしや活力を支える都市基盤づくり

地域の課題としては「豊かな地域の自然資源や文化財等」を「地域資源としてまちづくりへの活用」を図ること、「ビーチや公園、広場等」を「リゾート地にふさわしい交流空間の維持管理や景観の創出」につなげることなどが挙げられています。自然資源を維持・保全しながら、伊良部牧山公園を再整備することが、まちづくりの課題解決にもつながると期待できます。

### ③ 宮古島市公共施設等総合管理計画<sup>5</sup>

宮古島市が2016年に策定した同計画では、公共建築物マネジメントの基本原則として以下の6点を掲げ、施設保有量(延床面積)を20年間(2016年から2035年)で16%削減することを目標としています。

(1) 新規整備は原則として新規サービス事業のみ行う

(2) 複合施設を前提に更新を行う

(3) 施設総量(総床面積)を縮減する

(4) 施設コストの維持管理、運営コストを縮減する

(5) ゾーニング手法による見直し

(6) 民間移譲の推進

牧山展望台が該当する「観光施設」の基本方針は以下の通りです。

- 観光施設は観光客が多く訪れることから随時更新、もしくは必要に応じて民間への移管を目指していきます。
- 利用状況を把握し機能集約・複合化を進めていきます。
- 休止施設は早急に廃止除却できるよう進めていきます。

現展望台は「観光施設」として単独で整備されていますが、「産業施設」等の機能も兼ね備えることで複合化を図るとともに、指定管理制度等の導入によって、民間事業者による運営を行い、市の維持管理コストを縮減することが考えられます。

なお、「産業施設」の基本方針としては、「観光客等の利用の優先順位を整理し整備を図って」いくことなどが盛り込まれており、牧山展望台は観光客ニーズの高い施設と考えられます。

---

<sup>5</sup> 「平成28年度 宮古島市公共施設等総合管理計画」

## (2) 自然環境の保全

伊良部牧山公園は伊良部県立自然公園に指定されており、一帯は第三種特別地域に該当します。同公園計画によると、第三種特別地域は「開発による自然への影響を緩和し、生産・集落地域及び耕地防風林の持つ緩衝機能を保全」するため、「環境保全上、景観保全との関連地域として、その重要な部分での保全を図る」と位置付けられています。また、公園全体としては、以下の観点で利用が図られています<sup>6</sup>。

- イ 海洋性レクリエーションの他には海岸や斜面地の植物、地形、地質的資源を対象とする自然探勝、民俗文化財や集落等の歴史的、風土的資源を対象とする人文研究等、伊良部の魅力を満喫できる風土探訪型レクリエーションを推進する。
  - ウ アおよびイに関連するハイキング、ピクニック、キャンプの振興と将来的な温暖動向を受けて、休養・避寒等、保養レクリエーションの対応を図る。
  - エ 温暖な気候・風土を活かし、通年的にさらに家族層的に楽しめる施設整備の推進を図る。
- (ア、オ、カは省略)

第三種特別地域においては、工作物・建築物の新設・改修にあたって事前申請が必要となり、建築物の大きさや外観などにもルールがあります。一帯の美しい自然環境や貴重な生態系を保全するよう最大限の配慮をしながら、公園計画に即して、県との連絡を密に取って整備を進めていく必要があります。

## (3) 景観への配慮

宮古島市では景観計画を策定しており、「本市の市土及び周辺海域における風土・文化および環境を生かし、島の美しい景観を守り、育て、創造し、次世代に継承する総合的なまちづくりを推進<sup>7</sup>」することが目指されています。

牧山公園が該当する「農地ゾーン」は、「自然環境や地下水を守りながら暮らしの安全確保に配慮し、広大でまとまりのあるサトウキビ畑などを生かした、面的に管理の行き届いた農地景観づくりを進めます<sup>8</sup>。」とされています。伊良部島を一望できる景観との調和を図りながら、整備をすすめていくことが望ましいと言えます。

<sup>6</sup> 沖縄県自然保護課「伊良部県立自然公園 公園計画書」（平成 7 年策定）。下線は作成者にて追加

<sup>7</sup> 宮古島市景観計画

<sup>8</sup> 宮古島市景観計画ガイドライン令和3年度改訂版

## 第4章 地域のニーズ

本章では、伊良部牧山公園を利用する住民や来訪者のニーズをふまえ、伊良部牧山公園の位置づけや、備えるべき機能を確認します。

### (1) 地域に求められる機能

2022年に住民の意見交換会を行い、駐車場やトイレ整備、アクセスの改善（駐車場と近づけたり、車いすでも展望台を利用できるようにするなど）、地域コミュニティと協働した開発などの意見が見られました。主な意見は以下の通りです。

項目	内容
牧山公園の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 整備するならば駐車場が必須。</li> <li>● 展望台まで距離があると、高齢の方が利用しづらい</li> <li>● ライトがないため夜は星がきれい。</li> </ul>
牧山公園への期待・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 展望台の高さは現状のままで良い。自然と共存した建物を作ってほしい。</li> <li>● 親子がふれあえる場所・学べる場所にしてほしい。</li> <li>● 現駐車場から展望台までの導線を考えて整備してもらいたい。</li> </ul>
留意点・提案など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 佐良浜の神様が祀られている場所があるため気を付ける必要がある。</li> <li>● 地元主体で事業を行い、地域に還元する仕組みがあると良い。</li> </ul>

図 10 住民インタビューの結果概要(主要な意見の抜粋)

2024年から2025年にかけて意見交換会を実施し、牧山公園に求められる機能や整備・運営の方向性についてご意見をいただきました。主な意見は以下の通りです。

項目	内容
整備・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の事業者が中心となって運営できる仕組みが必要だ。</li> <li>● 設計に際しても、地域住民や運営候補者との対話を続けてほしい。</li> <li>● キッチンカーの出店等で、地域の事業者が関われる仕組みがあると良い。</li> </ul>
牧山公園への期待・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内に住む方が、市外から家族や友人が来た時に連れていきたくなるようなものを期待する。</li> <li>● 伊良部島を訪れた観光客が必ず立ち寄るシンボルになることを期待する。</li> <li>● 消費を促し、地域の経済に還元される仕組みを構築してほしい。</li> <li>● 観光案内の機能も必要ではないか。</li> </ul>
留意点・提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車いすを利用する方や、高齢の方なども利用できるバリアフリーが必須だ。</li> <li>● 宮古群島や、八重山群島が一望できる景観を活用してほしい。</li> <li>● 伊良部島の歴史・文化などを案内してほしい。</li> </ul>

図 11 意見交換会の主な内容(主要な意見の抜粋<sup>9)</sup>)

<sup>9</sup> 具体的な整備内容に関するご意見は、頂いた内容を精査したうえで、基本構想案に反映しています。

2022年にはサウンディング調査を実施し、3社から提案を受けました。施設は市が整備し、運営を民間事業者の創意工夫に任せることが望ましいと考えられます。

## (2) 先進地事例

2022年度に全国各地の展望台・テラス等の景観をウリにした観光施設の事例を調査し、以下のポイントを抽出しました。

ポイント	整備過程の留意点	運営の方向性
立地、景観、周辺の自然環境にマッチした空間設計、カラー、おしゃれなデザイン	・コンペ等によるより良い施設デザインの募集 ・宮古島市景観計画ガイドラインに準拠した景観との調和	・公園全体を管理する運営主体によるクオリティ管理
消費を促すための複合的なコンテンツと全体のクオリティ管理	・運営候補者との対話を進めながらの設計	
わくわく感を醸し出すアプローチの仕掛け	・駐車場から展望台に至る遊歩道の植栽整備(④)	・電動カートの導入によるアトラクション化
安全性とデザイン性を両立した通路、展望台	・宮古島市の気候・風土に合った設計(⑦) ・大きな窓と屋上テラスによる良質な眺望の提供(⑦)	--
贅沢感、特別感を演出する有料コンテンツ	--	・沖縄では珍しい足湯の設置 ・電動カートの導入
知的好奇心を満たす展示や仕掛け	・牧山の自然や歴史に関する展示(⑦)	--
景観とマッチし、地域の産品を活用したメニューの開発(カフェやテイクアウトなど)	・カフェ機能の設置(⑦)	・地域の産品を活用したテイクアウトメニューの開発
やや高めの入場料や、その他消費ポイントの設計による運営原資確保	・運営候補者との対話を進めながらの設計	・電動カート等による入場料または駐車料金等の徴収
情報拡散の仕掛け	--	・「伊良部ブルー」のコンセプト明確化
オペレーションの省力化	・収益施設の適正な配置	・地域事業者との連携による効果的な事業運営

図 12 先進事例から得られた運営・整備のポイント

## 第5章 牧山公園の将来像と整備方針

本章では、牧山公園の整備方針や、配置する機能について、これまでの検討結果をふまえて具体的に整理します。

### (1) コンセプト

コンセプト「伊良部ブルーに浮かぶ牧山展望テラス」には、海に開けた牧山からの景観や歴史、人々の営みなどを活かした新たな「自然と人々をつなぐ」をテーマとした公園づくりをすることで、地域活性化を図り、人々が集う地域の観光・交流の拠点を目指すという意味が込められています。

整備方針は、第2～4章にまとめた課題を以下の通り整理して策定しました。

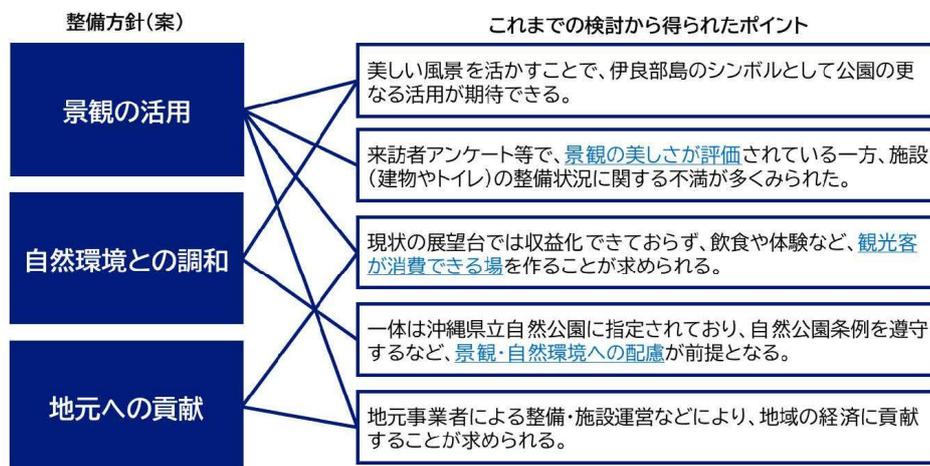


図 13 整備方針検討の経過

## (2) 整備イメージ

次の通り、施設の整備を行います。

ゾーン	整備の方向性
エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車場を拡張し、滞在時間が長くなることに対応します。</li> <li>・ 車いす用駐車スペースやバイクの駐車スペースなども設け、多様なニーズに対応します。</li> <li>・ トイレや売店を新設し、ドライブ客の利便性を確保すると同時に、整備された清潔感のあるエントランス施設として安心感を与えます。</li> <li>・ 公園内を移動できる電動カートの乗り場として、公園内でどんな体験ができるかをイメージが持てる案内機能を持たせます。</li> </ul>
自然へのいざない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊歩道を再整備し、車による物資の運搬や、緊急車両の通行を可能とします。</li> <li>・ 電動カートを走らせ、長い坂道を快適で楽しく移動し、展望台への期待を高めます。</li> <li>・ 遊歩道の両脇には宮古島市ならではの植物を植え、日陰を確保するとともに、海と空にいざなう道として島内外の方がワクワクする空間とします。</li> </ul>
展望テラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存のトイレを取り壊して展望テラス内に設置します。</li> <li>・ 2階建ての高さを変えずに屋上を展望テラスにして、現展望台のある2階はガラス張りの屋内テラスにします。より高い位置からの眺望と環境への配慮、雨天時や暑い日の快適な滞在を両立します。</li> <li>・ 入口近くでは伊良部島の自然や歴史文化を展示し、県立伊良部自然公園のガイダンス機能を提供します。</li> </ul>
ゆくいテラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊具や段差テラス等の設置により屋外施設ならではの風を感じる空間を目指し、展望テラスとは異なる自然を活かした空間とします。</li> <li>・ 電動カートでのアクセスを確保し、展望テラスを訪れた方が「ここにも必ず立ち寄りたい」と思えるような、自然を活かしたテラスと位置付けます。</li> </ul>
多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木々に囲まれた空間を活かして、親子で自然とふれあえる場所として、芝生や遊具等を整備します。</li> <li>・ 陰をつくる樹木や、屋根付きベンチなどを配置し、暑い日も快適に休める場所とします。</li> </ul>
施設基盤機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 快適に滞在し、滞在時間・消費額を伸ばすために必要な機能を、自然環境に配慮しながら配置します。</li> </ul>

図 14 伊良部牧山公園の整備内容

なお、森林については保全を基本とし、森林や海が見える景観を最大限に活用します。遊歩道・駐車場・広場等の整備に限れば、県立自然公園条例では 1ha を超える開発行為に該当しないと考えられます。



図 15 伊良部牧山公園の整備イメージ

### (3) 配置する機能について

配置する機能の詳細は、以下のように検討しています。

場所	① 駐車場	エリア	エントランス	改修
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在時間の増加・来訪者数の増加を見越して、駐車場を整備します。</li> <li>駐車場は、公園施設全体の安全管理と維持管理、ならびに安定的な運営の観点から、基本的に有料とします。そのため駐車料金を徴収する設備を導入し、夜間は閉鎖できるようにします。</li> </ul>			
スペック	<p>面積は 2,200 m<sup>2</sup> (整地するのは②③併せて 1,500 m<sup>2</sup>程度) を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普通車 80 台 (身障者用 3 台を含む)</li> <li>※入込客数が最も多い月に 10 万人/月入域→約 15%の 1.5 万人が来訪 →祝休日など多い日では 1,000 名程度が 1 日に来訪すると想定 →車 1 台あたり 2 名乗ると仮定して、500 台/日 →500 台/日 ÷ 6 回転/日 ÷ 80 台</li> <li>※駐車場 1 台あたり約 18.4 m<sup>2</sup> →計 1,472 m<sup>2</sup> (※身障者用を加味して 1,500 m<sup>2</sup>)</li> <li>大型バス 5 台 → 142 m<sup>2</sup> × 5 台 = 700 m<sup>2</sup></li> </ul>			
整備工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要台数の精査→土地の測量→候補地選定</li> <li>駐車場の設計→県への事前協議→着工</li> </ul>			
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>現駐車場は、県立自然公園の普通地域にあるため、第三種特別地域における新たな開発行為として県への事前協議が必要となります。</li> <li>宮古島市景観計画ガイドラインにより、駐車場の緑化が義務付けられています。</li> </ul>			
概算費用	約 2000 万円 (測量・設計に要する費用を除く、以下同様)			

場所	② 管理棟・トイレ・売店	エリア	エントランス	改修
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在使われていない駐車場脇の建物を改装し、電動カート等の受付とトイレ機能を持たせます。</li> <li>牧山公園の入口として、展望テラスへの期待・ワクワク感を演出できるように、売店や案内板等を配置します。</li> </ul>			
スペック	<p>面積は 200 m<sup>2</sup>程度、平屋建て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ (男性用小 6 大 4 + 女性用大 10 + 多目的 1・授乳室 1)</li> <li>電動カート等の受付及び公園管理事務所</li> </ul>			
整備工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>現建物の測量・図面作成、補助事業の場合は施設の改修や除却の要件を確認</li> <li>改修の計画を作成→県自然保護課と事前協議→着工</li> </ul>			
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>現建物は農林系の交付金を活用して整備された可能性があるため、固定資産の除却や事業の廃止に際して手続きが必要な場合があります。</li> </ul>			
概算費用	約 6,000 万円 (改装する場合) ~ 約 1.5 億円 (新築する場合の金額)			

場所	③ カート車庫・充電ステーション	エリア	エントランス	新設
整備内容	・ 駐車場敷地内に、屋根付きの車庫を設置します。車庫では、充電や車両の整備ができる空間も用意します。			
スペック	面積は 100 m <sup>2</sup> 程度を想定しています。			
整備工程	・ 駐車場候補敷地と配電網の張り方が決まり次第、設置場所を決定 ・ 構造物の外観が決まり次第、県に事前協議→着工			
留意点	・			
概算費用	約 4,350 万円 (プレハブ小屋を設置する場合の金額)			

場所	④ 遊歩道の改装	エリア	自然へのいざない	改修
整備内容	・ 緊急車両が通れるよう改修します。現在の遊歩道は道幅約 4m と建築基準法上の問題がありませんが、舗装や左右の花壇などがネックとなり得ます。 ・ 電動カートは一方通行とし、歩道との区別を明確にすることで安全を確保します。			
スペック	道幅 4m、長さ約 300m。アスファルトまたはコンクリート舗装			
整備工程	・ 道路の測量→改修の必要性・改修の内容検討→県に事前協議			
留意点	・ 電気と上水道の敷設(Ⅹ)にあたって一度遊歩道の下を掘り返す必要があるため、タイミングを合わせて改装することが望ましいです。			
概算費用	約 1,260 万円 (既存部分の整備・カート走行路を設置する場合の金額)			

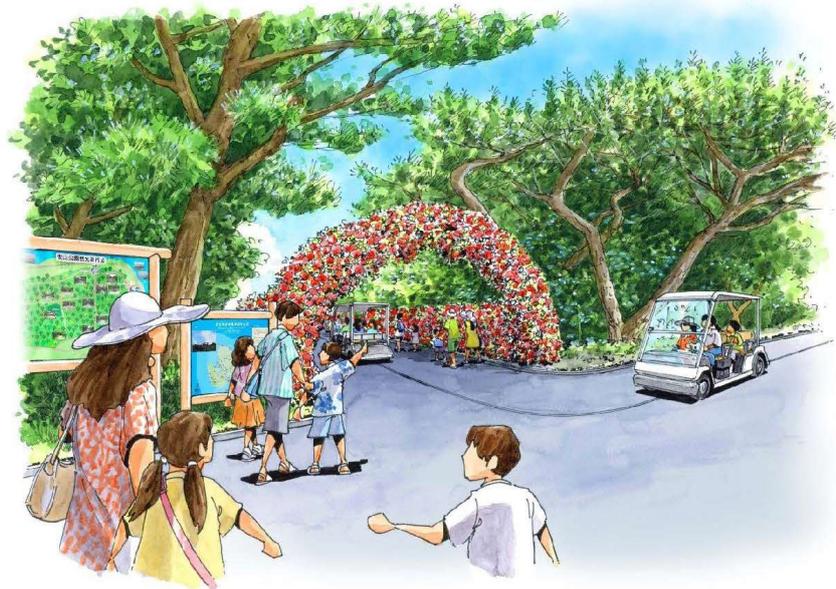


図 16 駐車場から中央遊歩道に入るところのイメージ

場所	⑤ ゆくい広場の遊歩道改修	エリア	ゆくい広場	改修
整備内容	・ 展望台から駐車場まで電動カートが片側通行できるよう、遊歩道の全体を舗装します。現状では一部舗装されていない区間や、舗装が傷んでいる箇所があるため、全体的に改修が必要です。			
スペック	道幅 4m、長さ約 400m。アスファルトまたはコンクリート舗装			
整備工程	・ 道路の測量→改修の必要性・改修の内容検討→県に事前協議			
留意点	・			
概算費用	約 1,100 万円（既存部分の整備・カート走行路設置）			
場所	⑥ ゆくい広場	エリア	ゆくい広場	改修
整備内容	・ 現状では砂利敷きの広場になっているゆくい広場を、海と風を感じられる広場として整備します。			
スペック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 約 600 m<sup>2</sup>、カートやキッチンカー等が通るスペースを除きウッドデッキ等にします。</li> <li>・ 天空ブランコや、段差テラス（木製などで壇状になっているもの）などを設置</li> <li>・ 簡易的なカフェやキッチンカー等が設置できるよう、道幅を確保します。</li> </ul>			
整備工程	・ 測量→改修の内容検討→県に事前協議			
留意点	・ 遊具等（工作物）の設置にあたって、県との事前協議が必要です。			
概算費用	約 3,700 万円			



図 17 ゆくい広場の整備イメージ

場所	⑦ 展望テラス	エリア	展望テラス	建て替え
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽化が進んでいる現展望台とトイレを解体し、新たな展望台を設置します。</li> <li>・ 建物は現展望台と同じく 2 階建てとしますが、屋上に立ち入れることで視点を高くし、より眺望を楽しめる構造とします。</li> <li>・ 新展望台の 1 階にはトイレを併設するとともに、「展望テラス」として地域の自然や歴史文化に関する展示を行い、伊良部島・宮古島市の生態系や自然環境等に関する学びの拠点を目指します。</li> <li>・ 新展望台の 2 階には展望カフェや足湯などを配置し、滞在時間を伸ばすとともに安定した施設運営の原資の確保につなげます。</li> <li>・ 災害時に、滞在している方が避難所へ移動するまで安全に過ごせるよう、発電機や停電時でも使えるトイレ、水・食糧等の備蓄を行います。</li> </ul>			
スペック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地面積約 230 m<sup>2</sup>、のべ床面積約 460 m<sup>2</sup> (2 階建て) (※屋上の面積を含んでいません)</li> <li>・ 屋上までエレベーターを設置し、高齢の方や障がいのある方も景色を楽しめる造りとします。</li> <li>・ 宮古島の気候・風土にあわせ、台風等に耐えうる強固な構造と、周囲の自然景観に調和した外観とします。</li> </ul>			



図 18 展望テラスの整備イメージ

整備工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現展望台・トイレの測量（図面作成）、アスベスト検査</li> <li>・ 現展望台・トイレの設計 ※景観上重要なシンボルとなることから、より良いアイデアを取り入れるため、設計コンペ等の実施を検討します。</li> <li>・ 設計案をもとに、県と事前協議</li> <li>・ 現展望台・トイレの解体工事（設計→実施）</li> <li>・ 新展望台の建設</li> </ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮古島市景観計画ガイドラインに即して、周囲と調和する外観とします。</li> <li>・ ⑧に記載する貯水槽・浄化槽と一体となって管理します。</li> <li>・ 限りある水資源を有効に活用できるよう、節水型のトイレや雨水の活用などを検討します。</li> </ul>
概算費用	<p>現展望台・トイレの測量（解体のための図面作成） 約 300 万円</p> <p>アスベスト検査 約 30 万円（※サンプル検査。問題なければ通常通り工事を進める）</p> <p>新展望台の設計費用 約 1,000 万円</p> <p>新展望台の建設費用 約 3.9 億円（内装を除く）</p>

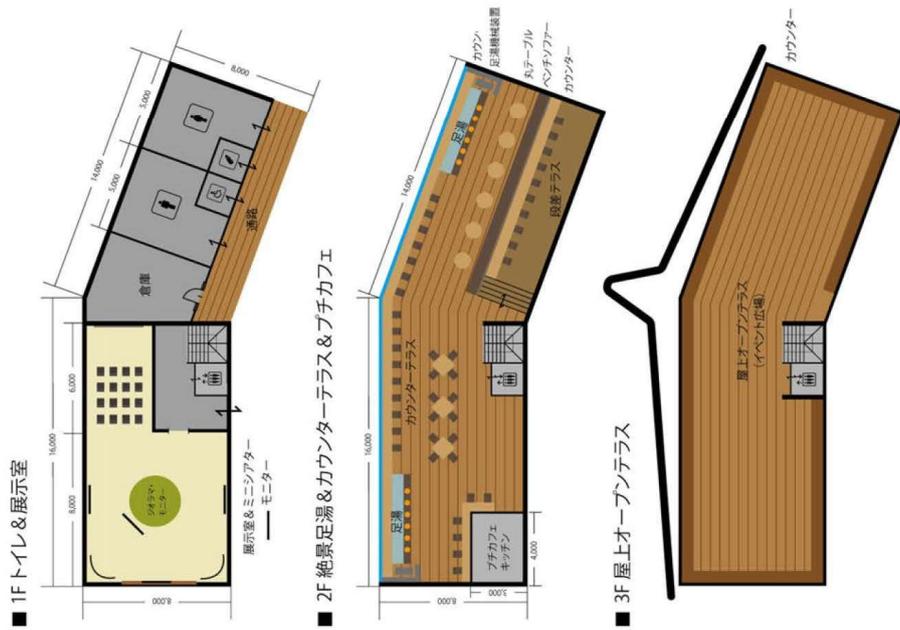


図 19 展望テラスのレイアウトイメージ

場所	⑧ 多目的広場	エリア	安らぎの広場	改修
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かつては遊具がありましたが、現在は東屋とベンチのみになってしまっています。そこで、親子で楽しめるよう、遊具と座れる場所を設置します。</li> <li>・ 暑い日でも快適に過ごせるよう、木陰をつくる木の植栽や、東屋・ベンチを広場の外周近くに配置します。</li> </ul>			
スペック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦 50m、横 40m、およそ楕円形の形、芝生敷き</li> <li>・ 広場の中心部分に大型の遊具を設置し、周りに小型遊具を配置します。</li> </ul>			
整備工程	・ 測量→遊具・東屋等の配置検討→県と事前協議→設備の配置			
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊具や東屋の外装は、県立自然公園の一部として景観に調和したものとします。</li> <li>・ 台風等にも耐える強固で安全なものを導入します。</li> </ul>			
概算費用	約 1.2 億円 (遊具やベンチの概算整備費+水道管敷設工事)			
場所	⑨ 多目的広場側の遊歩道	エリア	安らぎの広場	改修
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木々が茂り薄暗くなっているため、安心して利用できるよう剪定を行います。</li> <li>・ 遊歩道の舗装が傷んでいる箇所があるため、舗装の再整備や必要に応じて拡張などを行います。</li> <li>・ 多目的広場に至る水道管を敷設します。</li> </ul>			
スペック	幅 2m 前後、長さ約 150m			
整備工程	・ 測量→改修箇所の洗い出し・水道工事の設計→県との事前協議→整備			
留意点	-			
概算費用	約 570 万円			



図 20 多目的広場の整備イメージ

## 第6章 整備工程

### (1) 今後のスケジュール

以下の通り、整備を進めていきます。建設業の慢性的な人手不足や、気候変動等による台風リスクの増大をふまえ、余裕をもって進めていきます。また、整備に際しては住民・市役所内の関連部署、沖縄県自然保護課などと密にコミュニケーションをとりながら進めていきます。

項目	1年目			
	1Q	2Q	3Q	4Q
(1)現状把握	公園主要部の測量 現建物の図面作成	現建物のアスベスト検査		
(2)設計		解体工事の設計	基本設計・県との事前協議	
(3)解体				
(4)建設				
(5)関係者協議			庁内関係部署への照会(市) 景観審議会(市)	
(6)運営者		運営事業者の選定方法を検討	運営候補者との対話	
		※アスベスト検査の結果によっては時間・費用が増大する可能性があります		

項目	2年目		3年目	
	上期	下期	上期	下期
(1)現状把握				
(2)設計	実施設計			
(3)解体	現展望台・トイレの解体工事			
(4)建設		①駐車場(伐採・整地→舗装) ④⑤遊歩道整備 ⑩⑪⑫インフラ整備 ⑥ゆくい広場、②管理棟、③電動カート車庫整備	⑧⑨多目的広場・遊歩道整備 ⑦展望台整備	
(5)関係者協議	庁内関係部署への照会(市) 事前協議(県)※残りがあれば			
(6)運営者	運営事業者の公募	契約内容の精査	開業準備	プレオープン オープン

図 21 伊良部牧山公園整備スケジュール(案)

## (2) 整備費用

伊良部牧山公園の整備にあたり、第一期整備でかかる費用は以下の通りです。なお、近年の資材費・燃料費高騰と建設業の人手不足を受けて、コストがさらに1.1～1.5倍程度上振れする可能性があることも考慮する必要があります。

大項目	小項目	金額	
(1)現状把握	土地の測量(第一期整備部分)	約300万円	
	現建物の測量・製図(解体のため) ※展望台・トイレ	約350万円	
	アスベスト検査	約30万円	
(2)設計	基本設計	約360万円	
	実施設計	約1,000万円	
(3)解体	現建物の解体	約300万円	
(4)建設	エントランス	① 駐車場	約1,000万円
	自然へのいざない	② 管理棟・トイレ	約1.4億円
		③ カート車庫・充電ステーション	約2,900万円
	ゆくい広場	④ 中央の遊歩道	約840万円
		⑤ ゆくい広場側遊歩道	約720万円
	展望テラス	⑥ ゆくい広場	約2,500万円
		⑦ 展望テラス	約3.3億円
	多目的広場	⑧ 多目的広場	約1.2億円
		⑨ 多目的広場側遊歩道	約380万円
	施設基盤機能	⑩ 貯水槽・浄化槽	約5,000万円
		⑪ 水道ポンプ・浄化槽	約2,900万円
		⑫ 常夜灯・共同溝	約600万円
合計		約10.2億円	
(5)内外装・備品	⑬ 電動カート	約4,000万円	
	⑭ 植栽の整備	約1,000万円	
	⑮ 遊具等の設置	約100万円	
	⑯ 足湯	約700万円	
	⑰ 展示パネル	約1,000万円	
	⑱ カフェ設備一式	約1,000万円	
	⑲⑳㉑㉒ 植栽・花壇等	約500万円	
総計		約11.3億円	

図 22 伊良部牧山公園の整備に係る費用の概算

### (3) 運営手法

運営にあたっては、「伊良部ブルーに浮かぶ牧山展望テラス」というコンセプトを公園全体で体现でき、宮古島市を代表する観光スポットとして高い質のサービスが提供できるよう、民間事業者が全体の運営に関与することが望ましいです。「地元への貢献」の観点から、地域内の事業者が運営の中心的な役割を果たすとともに、地域住民の雇用や、地域産品の積極的な利用、地域の事業者等が出店やイベントなどを通して間われる仕組みなどにより、社会・経済的な効果を高めることが期待されます。

県立自然公園として自然の保護を優先しながら、運営事業者の創意工夫と地域との対話に基づく活用が図れるよう、市と運営事業者が密に連携し、運用していくことが必要です。

そのためにも、設計段階から運営候補となる事業者や、同種の事業実績を有する事業者との対話を重ね、自然公園という立地条件の中で効果の最大化をはかります。

#### <運営事業者選定の考え方>

- 本構想及び市・県の関連計画や法令を遵守し、賛同いただける
- 適切な運営体制を有し、効果的な人員配置を行う見込みがある
- 事業者の既存事業等が、牧山公園で行う事業内容と親和性を有する
- 地域への貢献に意欲があり、地域内の生産者・事業者・住民等と対話を重ねている

なお、運営手法としては指定管理者制度もしくはPFI方式が考えられます。

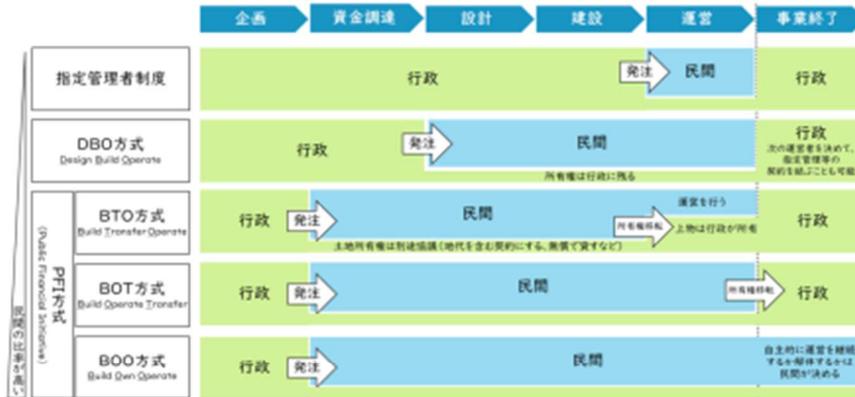


図 23 官民連携の運営手法(例)

施設の運営・公園の維持管理にあたっては、駐車料金や入場料金等（以下、「駐車料金等」）に加え、電動カートや展望テラス内のカフェ・足湯等の利用料金（以下、「利用料金等」）を原資とします。駐車料金等については、地域の方が安らげる場所として日常にご利用いただけるよう、市内在住の方に対する減免等を想定しています。

具体的な料金設定については、地域の方々や運営候補者との対話をしながら、県内外の類似事例や、自然環境保全のための来訪者数コントロール等の視点もふまえ、検討してまいります。

地元への貢献を高めるために、周辺施設とのシナジー効果の創出もはかります。「いらぶ大橋海の駅」と牧山展望台とは、遊歩道を通れば約 1.2km と近く、周遊が特に期待できます。周遊によって、混雑の緩和や消費額の向上、満足度の向上などにつながります。

豊かな自然環境を楽しみながら、坂道の移動を容易にするために、グリーンスローモビリティの活用なども考えられます。



図 24 グリーンスローモビリティのイメージ<sup>10</sup>

<sup>10</sup> 国土交通省（令和3年）グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き

## (6)宮古島市伊良部地区住民説明会

伊良部地区にお住まいの皆さま

---

---

# 伊良部牧山公園活用基本構想 意見交換会のお知らせ

---

---

令和6年10月吉日

宮古島市観光推進協議会事務局

日頃より宮古島市の観光振興にご協力いただき、ありがとうございます。牧山展望台の老朽化にともない、展望台の建て替えを含めた伊良部牧山公園全体の魅力向上を検討しています。自然環境を守りながら、地域住民の方の憩いの場や自然とふれあえる場としてより魅力的な場所を目指すとともに、より多くの観光客が訪れ、消費する場にしていくことで伊良部地域の振興に貢献できるよう、公園の改修について検討を進めております。このたび伊良部牧山公園活用基本構想の策定に向けて案をとりまとめましたので、地域住民の皆様のご意見をいただきたく、以下の通りご案内申し上げます。

### 記

- 日時 2024年11月12日(水)17時~18時(予定)
- 会場 宮古島市伊良部屋外運動施設(伊良部球場)会議室  
(宮古島市伊良部字長浜1822-1) ※メイングラウンド向かい側の建物です。
- 主な内容
  - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)の説明
  - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)に関する意見交換  
(地域住民の皆様が牧山公園に求める機能や役割、自然環境の保全に関することなど)
- ご参加方法 ご予約は不要です。当日会場までお越しください。
- お問い合わせ先 宮古島市観光推進協議会事務局  
宮古島市観光商エスポーツ部 観光商工課 (担当:譜久島、洲崎)  
メール: kanko@city.miyakojima.lg.jp / 電話:0980-73-2690

以上

## 議事録

業務	伊良部牧山公園活用基本構想意見交換会
日時	令和6年11月12日(水) 17:00~18:00
場所	宮古島市伊良部屋外運動施設(伊良部球場)会議室
出席者	伊良部島関係者4名 宮古島市観光商工スポーツ部 観光商工課 砂川課長、洲崎係長、譜久島主事 JTB 総研岩佐、橋本
資料	・伊良部牧山公園活用基本構想(案)

### 1. 開会

(観光商工課：譜久島主事)

- ・本日は牧山公園活用基本構想の説明を行い、その内容についてご意見をいただきたい。

### 2. 挨拶

(観光商工課：砂川課長)

- ・考えていることは皆一緒に、伊良部の重要なコンテンツである牧山展望台を、素晴らしいものにしていきたいということと思われる。本日はざっくばらんに話し合い、牧山公園について一緒に考えていきたい。最初に事務局より牧山公園の基本構想案について説明をお願いしたい。

### 3. 伊良部牧山公園活用基本構想について

(JTB 総研：橋本)

- ・資料にもとづいて説明。

### 4. 質疑応答・意見交換

(観光商工課：砂川課長)

- ・何かお聞きしたいこと、意見などがあれば伺いたい。

(参加者)

- ・個人的な意見だが、2階の部分で食べ物があるところに足湯があるのはどうなのか。別にしてはどうか。物販も多めにして、商工会の会員が作っている特産品を置いてはどうか。
- ・展望台から多良間が見えることを売りにして、コイン式の双眼鏡を置いてはどうか。隣の島が見えればテンションが上がる。
- ・サシバのモチーフは踏襲するべきだ。サシバの島なのでサシバの形にしたら良い。
- ・空港にもあるような花笠はどうか。宮古らしいのではないか。
- ・USJの入り口のようにサシバがいても良い。
- ・サシバの目から海が見えるようにしてはどうか。
- ・南城市、石垣市に行くが、指定管理で地元の人が入っていることが良い。地元の家族がご飯を食べていて、地元の話ができる。地元の人が入れるようにしてはどうか。きれ

いなパッケージのお土産も良いが、島のおばあが野菜を売っていても良い。駐車場は地元の人が管理してくれると良い。

- ・崖を結ぶロープウェーはどうか。
- ・2階はカフェキッチンではなく、万座毛のように何店舗も入れるようにしてはどうか。万座毛は1階にアパレルがあり、2階に飲食店がある。その先から岬に行く。そのような感じはどうか。
- ・おにぎりをテイクアウトして広場などで食べても良い。
- ・敷地が大きいと維持費がかかり、除草費用が高くなる。除草剤を使うのか。

(アドバイザー：石田)

- ・広い敷地の植栽環境が大事になる。建物がきれいになっても周辺を手入れしないと意味がない。

(参加者)

- ・施設整備だけでなく、運営までしっかりと行ってもらいたい。
- ・出店する事業者を増やせば、家賃で維持費を賄えて管理をしやすくなる。
- ・大きくなると管理がしづらくなる。入れられるだけ入れてはどうか。
- ・修繕、管理費を試算してからテナント料を決めれば、地元の人も入りやすい。

(JTB 総研：岩佐)

- ・指定管理を取りまとめてくれる地元の事業者がいれば良い。

(参加者)

- ・規模が大きいのでできる事業者は限られてくる。内地の人が来ることになる。地元の人はこのような施設を運営したことがない。地元の人がやりやすいような形にして渡してくれれば良い。地元を出た若い人が帰ってくるのも良い。プロモーションの方法も難しい。
- ・ビジネスシーンでの活用は考えていないのか（※伊良部島でユニークベニユーを検討中）。

(JTB 総研：岩佐)

- ・どちらかという観光客向けだ。発端は数年前に伊良部で観光客向けに行った調査だ。橋が架かって人が来るようになったが、滞在時間が短く、島内で買ったり食べたりせずに帰ってしまっていた。時間を使ってもらう場所が必要だ。住民の方向けにも満足できる施設にしたい。

(参加者)

- ・地元の人が来るようにということでは、いくらでもアイデアが浮かぶが予算の問題がある。

(観光商工課：砂川課長)

- ・遊べる公園としては、何が欲しいのか。

(参加者)

- ・現在提案いただいた遊具があるだけでありがたい。駐車場が無料であればなお良い。
- ・土産店か。現状では下地島空港、宮古島のドンキホーテ、スーパーなどで買っている。伊良部で伊良部のものを買うには海の駅があるが、海の駅をもっと大きくしたようなものにしてはどうか。海の駅は販売スペースが限られる。コアなお土産店があれば良い。
- ・北部の土産店はその場で土産品を作っていた。

- ・ 広場で作っていても良い。おばあがワークショップをしてはどうか。  
(JTB 総研：橋本)
- ・ 入り口に使われていない小屋がある。トイレがないので、トイレ兼土産店、電動カートの受付を考えている。海の駅とバッティングするべきではないと考えている。カートがあるのでカフェをメインにしても良いのではないかと考えている。県立自然公園は県の計画があり、今の建物と違う大きさのものを建てると認められない場合がある。  
(参加者)
- ・ トライアルキッチンがあれば入って弁当を売ることができる。生活に溶け込んだ飲食物があれば地元の人にも来てもらえる。伊良部の料理本があるので、それを使って子どもたちにご飯を提供したいが製造許可を取っておらずできない人がいる。一般消費者も買えれば呼び込める。商工会では物を作る人はいるが小さく場所もない。作る人を集める。フードバンクのように規格外の野菜を売ってはどうか。地元の野菜が地元に出回らない。今は余った野菜をもらう程度だ。農家も上げる文化から脱却する必要がある。稼ぐ力を向上するべきだ。最近は無農産物が出来てきて稼いでいる。商工会では次年度に地元の食材を使った管理栄養士の 500 円の弁当を検討している。地元の食材が入っていると地産地消に繋がる。1 階の展示について、20 年でサンゴが白化すると言われており、現在サンゴの養殖に取り組んでいる。画面でリアルに養殖の場所を映して伝えてはどうか。テレビ一つで良い。もすぐ業者の漁場を映して流してはどうか。リアルタイムで更新できる現状を伝えるものを置いてはどうか。スマートに展示ができる。漁師の様子を見せて人材育成をしてはどうか。良いところと共に課題も伝える。観光と産業と人材育成を繋げれば、どこにもないものになる。三線の曲を流しても良い。ロボットが三線を弾いているところもある。人にフューチャーしたものと自然についてのものがあれば魅力と課題が伝わる。
- ・ 伊良部の方言は独特のイントネーションがある。案内の人がなままっているとおもしろい。
- ・ 海の岩（磯）の名前をすべて言えるおばあがいる。その人が亡くなる前に動画を撮っておく。
- ・ 文化に関して、公園近くにある墓をどうするか。
- ・ 観光客は地元の人が食べているものを食べたがる。
- ・ 海水から塩分を取る漁師飯はどうか。
- ・ 駐車料金を取るならそれなりの価値を提供する必要がある。
- ・ 望遠鏡があると良い。
- ・ 1 階の展示内容については、教育委員会から話を聞けるのか。対象は学生だけではない。伊良部島のコアなファンが立ち寄る場所になる。
- ・ 観光地を紹介すれば島内を周遊するかもしれない。  
(JTB 総研：岩佐)
- ・ 団体客のバスが行く場所をきちんと整理する必要がある。バスの駐車場もできればと考えている。  
(参加者)
- ・ 現状で 3~4 台しかバスが停められない。滞在時間は佐良浜で 10 分、通り池が 40 分、牧山が 20 分か。トイレがある場所ではないとバスは停まらない。まれに渡口の浜があ